見聞録

「THIRD ANNUAL CONFERENCE ON THE PHYSICS, CHEMISTRY AND BIOLOGY OF WATER」見聞録

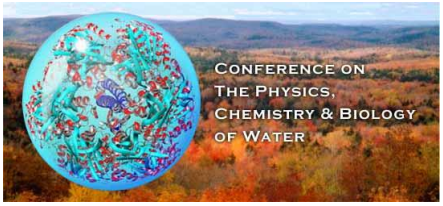
工藤 昭彦
東京理科大学理学部応用化学科

10 月 16 日から 19 日にかけて、Prof. VLADIMIR VOEIKOV (モスクワ大学) がチェアーを務め、Vermont Photonics Technologies Corp がスポンサーになっている" THIRD ANNUAL CONFERENCE ON THE PHYSICS, CHEMISTRY AND BIOLOGY OF WATER"がアメリカの Vermont 州の West Dover で開催された。読者の中でこの場所がどこかわかる人はほとんどおられないと思う。私も、地図などを調べたが、行ってみるまではほとんど場所を把握できなかった。ボストンの空港に着き、主催者が手配した乗り合いの Van サービス会社に電話し、そのときに始めて待ち合わせ場所を知らされた。Van が待ち合わせ時刻を 40 分ほど遅れて到着し、ようやくピックアップされ、4 時間ほどかかって午後 10 時ごろに会場のホテルに到着した。会場は、MOUNT SNOW RESORT AND CONFERENCE CENTER で、スキー場に隣接したリゾートホテルであった。シーズンオフで紅葉がきれいな時期を狙って、毎回ここで開催されているそうだ。なにしろ周りには何も無く、缶詰め状態になって議論するには好都合な場所であった。また、レンタカーを借りる以外は交通手段が無いので、移動に関しては Van サービスを利用する以外に手立てが無かった。

前置きが長くなったが、本題に移ることにしよう。この Conference の詳細な経緯や、Vermont Photonics Technologies Corp との関わりについては、(http://www.vermontphotonics.net/water_2008/index.html) に書かれている。この Conference の主題は水を切り口としたサイエンスであり、2004 Gordon Research Conference に端を発している。その後、Gordon Conference に採択されなかったことも有り、Vermont Photonics がスポンサーとして続いているそうだ。参加者リストがなかったのではっきりしたことは覚えていないが、今回の参加者は約 60 名で、ロシア人の研究者が多くを占めていた。ヨーロッパや南米からの参加者もいた。参加者の多くは物理学者で、その他はバイオ、化学者だった。講演内容 (http://www.vermontphotonics.net/water_2008/schedule.html 若干の変更があった) は、固-液界面付近における水の構造や性質の特異性を扱っているものが多く、Floating Water Bridge などという筆者にとっては目新しい現象が紹介され、勉強になった。地球史における水のかかわりについての講演も筆者の興味を引いた。その他は、バイオと水のかかわりに関した講演もいくつかあった。筆者は、「Photocatalytic water splitting to generate clean and recyclable hydrogen」というタイトルで講演を行った。当初東京大学の堂免先生が招待されていたが、急に都合が悪くなり筆者が代理で講演を行った。水素に関する講演は、他には無かった。Gordon Conference を引き継いでいるせいか、議論が非常に活発で、予定時間を 30 分以上オーバーする講演もいくつかあった。会議はアットホームな雰囲気で進められ、ポスターセッションもアレンジされていた。

昼食、リフレッシュメント、および夕食の一部は参加費でカバーされており、食事やスイートの質は良かった。また、カフェテリアで働く人たちの姿をみて、アメリカの田舎の良さを感じることができた。

19 日の昼に Conference は終了し、再び 4 時間ほど車に揺られて夕方にボストンに着いた。もちろん、日本に帰る飛行機はその時間には無いので、その晩はボストンに泊まった。ボストン見物をする暇も無く翌日早朝、帰路についた。



http://www.vermontphotonics.net/water_2008/schedule.html にあるバーモンドの紅葉と Conference のポスター